

『イエスの微笑と出会う』 ヨハネの福音書 1章43～51節 2017.1.29(聖日礼拝説教より)

『わたしは絶えず主に相対しています。…わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／右の御手から永遠の喜びをいただきます。』詩篇 16:8,11(新共同)

①イエスのまなざし…主は、バプテスマのヨハネ、アンデレとヨハネ、シモン、ピリポ、そしてナタナエルを次々に見つけ、声をかけ、出会われた(ヨハネ 1:29～43)。主は私たちの日常に日々目を留められる！ピリポはナタナエルに、聖書全巻が預言し、ずっと待ち望んできた救い主と「今」会ったと証。疑う彼と一切議論せず「来て、自分の目で確かめて」と招く(46節)。ナタナエルはピリポが招く前から主が自分を知り、心渇いて神を求める本物の信仰者だと主に告げられ、救い主を信じた(47～49節)！伝道とは、「人となって私たちの間に住まれ、恵みとまことに満ちておられるイエス(ヨハネ 1:14)」を紹介し、その方が「今」私の内におられ、共に生きていることを証すればいい！イエス様が導かなければ、誰一人教会には来ない！私たちが神を求めたのではなく、神が私たちを愛し、目を留め、御許に引き寄せられる！アダムとエバは罪を犯したとき、「神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した(創世記 3:8)」が、『神である主は、「あなたは、どこにいるのか」(3:9)』と探し、見つけ出し、ご自身と向き合う元の関係へと招かれる！

②イエスのまなざしの先にあるもの…主は、私たちとの出会いの先にあるものを見つめる！『ナタナエルよ(わたしとの出会いの驚きよりもっと大きなことをあなたは見る！わたしはあなたのため、また全ての人のために、天を開く(50節)』と。『天が開けて(51節)』とは、天と地がつながり、すべての人に御国へ入る道が開かれること。岩渕まことさんの長女・亜希子ちゃんは、イエス様を信じるも脳腫瘍を患い8歳で召天。深い悲しみの両親に主は、御許にいる娘の夢を見せて、再会の確かな希望を与えた！墓標には『もはや死もなく、悲しみ、苦しみもない(21:4)』の言葉。『天が開け…』とは、御言葉が開かれ、頑固者の心が開かれ「神の御顔を仰ぎ見る(黙示録 22:4)」ようになること。ステパノは臨終に「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見える(使徒 7:56)」と叫ぶ。朝ごとに聖書を読んで御顔を仰ぎ、夜にも御顔を仰いで感謝したい！★あなたは日々御顔を仰いでいるだろうか？日々御顔を求め、日々イエス様の微笑と出会うのに必要なことは何だろうか？